

JIT(Just-In-Time)生産

トヨタ的生産方式の普遍性

クレジット

「トヨタ 世界一への条件
～グローバル企業の苦闘～」
(NHKスペシャルより)

生産性の式

$$\text{生産性} = \frac{\text{産出}}{\text{投入}}$$

$$\text{生産性} \nearrow = \frac{\text{産出} \nearrow}{\text{投入} \searrow}$$

$$\text{生産性} \nearrow = \frac{\text{産出} \nearrow}{\text{投入}}$$

$$\text{生産性} \nearrow = \frac{\text{産出}}{\text{投入} \searrow}$$

成熟市場(1)

- 需要総量の大幅な増大は無理
 - 産出増大よりも投入減少
 - リーン生産
- 頻繁で小幅な需要変動に対応
 - 頻繁なモデルチェンジ
 - 多彩な品揃えとカスタマイズ
 - フレキシブル生産

成熟市場(2)

- フレキシブル
 - 多品種少量生産[→変品種変量生産]
 - 短納期
- リーン
 - 在庫ゼロ
 - 不良品ゼロ

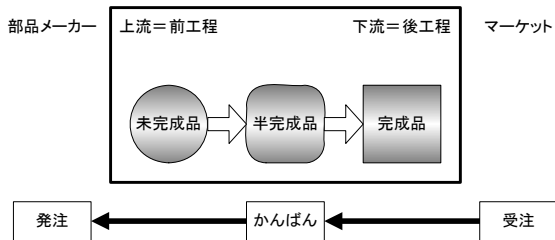
リーン生産

$$\text{生産性} \nearrow = \frac{\text{産出}}{\text{投入}} \searrow$$

在庫ゼロ

- 流れ生産
- かんばん方式

かんばん方式



トヨタ的生産方式の有効性

- 成熟産業
- アセンブリ産業
- 空間的緊密
 - サプライチェーン全体が空間的に近い
 - 企業内分業(自社内の諸工場)
 - 社会的分業(組立メーカと部品メーカ)